



2018年 3月

第273号

The Service Club of The YMCA

東京八王子 ワイズメンズクラブ

会長 小口 多津子
副会長 並木 信一
書記 茂木 稔・山本 英次
会計 長谷川 あや子
幹事会長 辻 久子
担当主事 中里 敦
ブリテン 山本 英次・茂木 稔
大久保 清
直前会長 中塚 辰生

国際会長 Henry Grindheim (ノルウェー) 主題 “Let us walk in the Light together” 「ともに、光の中を歩もう」
スローガン “Friendship across the borders” 「国境なき友情」
アジア地域会長 Tung Ming Hsian (台湾) 主題 「ワイズ運動を尊重しよう」
スローガン 「よりよい世界のために、ワイズメン・ファミリーの絆を強めよう」
東日本区理事主題 栗本 治郎 (熱海) : 「広げよう ワイズの仲間」
「楽しくなければ ワイズじゃない 積極参加で 実りある奉仕」
あずさ部部長主題 大野貞次 (東京西) 「継続は力なり一歩でも前に一歩してあげよう」
クラブ会長主題 小口多津子 (八王子) 「無理なく、地に根を張って」

— 東日本大震災支援及び地雷廃絶キャンペーンのために —

第20回 チャリティコンサート

日時: 2018年3月10日(土)

会場: 北野市民センター 8階ホール

集合・準備: 9:30

司会: 山本 英次

開場: 13:30 開演: 14:00

挨拶: 八王子ワイズメンズクラブ会長 小口 多津子
日本地雷廃絶キャンペーン(JCBL)

幸坂 説子 様

演奏会: “Swing Swing Swing!!”

ジャズコンサート

上田亜紀子(クラリネット)、並木健司(ギター)

山本琢(ピアノ)、田野重松(ベース)

八城邦義(ドラム)

反省会: 16:50~「ひげじー」(元青木屋)

巻頭言

第20回目のチャリティコンサート

久保田貞視

3月10日(土)午後2時より、第20回チャリティコンサートを開催します。

これまでのチャリコンの流れについてはブリテン2月号に詳しく掲載しましたので、当クラブが何故地雷廃絶及び東日本大震災支援のためのコンサートを継続しているか、触れてみたいと思います。

当クラブをチャーターした1994年から3年目にクラブでなにか地域奉仕・コミュニティーサービスをと検討したところ、並木メネットが知り合いの音楽家三上佳子さんが絹ヶ丘に住んでおり、頼んでみようということで相談したところ喜んで引き受けてくれて、まずはサロン風の演奏会でも

先月の例会ポイント (2月)		BFポイント	
在籍	17名	切手 (国内・海外)	4831g
メン	11名	累計	6002g
メイキャップ	0名	現金	0円
出席率	64%	累計	0円
メネット	4名		
ゲスト	0名	スマイル	8,960円
ビジター	5名	累計	64,662円
ひつじぐも	2名	オークション	0円
		累計	0円

聖句

「いつも新しい練り粉のままにいられるように、古いパン種をきれいに取り除きなさい。現に、あなたがたはパン種に入っていない者なのです。キリストが、わたしたちの過越の小羊として屠られたからです。だから、古いパン種や悪意と邪悪のパン種を用いないで、パン種が入っていない、純粋で真実のパンで過越祭を祝おうではありませんか。」

(一コリント人への手紙5章7節~8節)

やろうかとの話でした。しかし、どうせやるなら北野市民センターの8階ホールを借りて、地域の人を無料で招待しようかということになりました。並木メネットが三上さんに相談したところ、良い話だとしてご了解いただきました。したがって、三上さんにはボランティアで演奏会をお願いし、チラシを配布したり、八王子市の広報に掲載したところ多くの方に集まっていたいただきコンサートは大成功でした。

翌年は三上さんをお願いするとしても何かチャリティを目的として演奏会を開催しようとなり、メンバーで協議した結果、JCBL（地雷廃絶日本キャンペーン）がノーベル平和賞を受賞したばかりのICBL（地雷廃絶国際キャンペーン）の日本での組織として設立されており、しかも事務局が東京YMCAにあり、その担当が入社したばかりのメンバーの眞野メンのコメントであることより、眞野メンがJCBLと交渉し、チャリティの益金をJCBLに寄付することになりました。

したがって1998年を第1回として毎年継続して来ましたが、2011年度は3月11日の東日本大震災で急遽キャンセルとなりました。入場整理券は一般の方に販売しており、コンサートの当日、北野市民センターにデスクを設け待機して、コンサートに来られた方々に、ご迷惑をかけた謝りとともに購入いただいた入場整理券の払い戻しあるいはJCBLもしくは東日本大震災支援に寄付していただくか照会して対応しました。

2012年度からはこれまでの「地雷廃絶日本キャンペーン（JCBL）」だけでなく、同時にワイズメンズクラブや東京YMCAで支援している「東日本大震災支援金」をチャリティの目的として継続して来ています。

このチャリティコンサートは実質21回継続してきましたが、クラブのメン・メネット全員がチャリティコンサートの趣旨を十分認識し、全員参加の行事となっています。クラブのメンバーだけでなく、中央大学YMCAひつじぐもも設立の翌年（2001年）からお手伝いいただいています。当クラブ最大の行事であるチャリティコンサートを是非成功させたいと願っています。

TOF例会（メネット例会の報告）

辻 久子

二月の例会はTOFの日であり、メネットナイトの例会でした。当日欠席のメネットも裏方として会場の予約から準備・そして行までのすべてをメネットが担当しました。この日の卓話者は並木メネットが親しい音楽療法士（二月のブリテンに掲載）の能村さん森脇さんそしてソプラノの前山さんの三人です、

沢山の施設を巡って歌に合わせて身体を動かし楽しく笑顔になる充実のひとつを提供しておられる仲間です。私たちメン・メネットも懐かしい小学唱歌の一つの♪頭を

雲の上に出し〜♪「ふじさん」を童心にかえって声高らかに歌い身体を動かしてがんばりました。

その日遠くから新幹線に乗り三島ワイズメンズクラブの大村知子・東日本区メネット委員長がご出席くださいました、ご挨拶で「今メネット会の先をみつめると、メンと『協働』することも一案と思っている」という言葉に共感しました。年を重ねてnegativeの道に迷うより、positiveな道が迷路を拓く道かなと思いました。東日本区のメネット会がすこしずつ弱っていると聞いている中で、わたしたちもなんとか頑張っていけるかしら。

今年のメネット例会は「あ〜あ楽しかった！」の声に、身体はガタガタでも心は晴れやかに大満足のメネット例会でした。



大村知子・東日本区メネット委員長



音楽療法士：能村さん、森脇さん、前山さん



大成功のメネット例会を終えて

あずさ部かいじ(甲斐路)評議会の報告

小口多津子

会場は甲府駅前のとてもモダンなガラス張りの建物、山梨県立図書館多目的ホールでした。ホストクラブ甲府21クラブによって、2月10日(土)に開かれました。出席者が81名、その中の構成員数が52名、定足数が36名、議案はすべて成立しました。大野貞次あずさ部長の点鐘でスタートし、議案の2018年—2019年度あずさ部役員は次のように決まりました。

部長・広瀬 健さん(甲府21)、直前部長・大野貞次さん(東京西)、次期部長・赤羽美栄子さん(松本)、書記・古屋秀樹さん(甲府21)、会計・松村禎夫さん(甲府21)地域奉仕事業主査・丹後佳代さん(甲府)、会員増強主査・菰刈光彦さん(東京サンライズ)、国際交流主査・小池亦彦さん(富士五湖)、ユース主査・小口多津子(東京八王子)、メネット連絡員・野々垣悦子さん(甲府21)。

次に11クラブの次期会長は、甲府クラブ(ピーターマウントフォードさん)、東京山手クラブ(浅羽俊一郎さん)、東京西クラブ(本川悦子さん)、東京武蔵野多摩クラブ(山口直樹さん)、松本クラブ(赤澤睦子さん)、東京サンライズクラブ(大谷博愛さん)、甲府21クラブ(野々垣健吾さん)、東京八王子クラブ(久保田貞視さん)、東京たんぽぽYサービスクラブ(越智京子さん)、富士五湖クラブ(後藤明久さん)、長野クラブ(森本俊子さん)です。続けて、次年度(2018—2019年)部会・評議会の予定が発表されました。

部会・・2018年10月20日 ホスト(甲府21)

第1回評議会・・2018年7月14日 ホスト
(東京サンライズ)

第2回評議会・・2019年2月9日 ホスト
(東京八王子)

第3回評議会・・2019年5月11日 ホスト
(長野クラブ)

また、2017—2018年度 あずさ部CS助成金配分(助成金は合計20万円)

- 1) 恒例くにたちさくらフェスティバル (武蔵野多摩クラブ) 2万円
- 2) アジア賞(私費留学生への援助) (松本クラブ) 5万円
- 3) 第8回障がい者フライングディスク大会(富士五湖クラブ) 7万円
(以下、新規事業)
- 4) ベビーカーコンサート (甲府21クラブ) 3万円
- 5) 車イスでアウトドア体験 (長野クラブ) 3万円

以上の5クラブにはそれぞれの助成金が渡されました。

次に、東日本区役員会報告を大野部長がされて、続けてあずさ部会計中間報告が(部会計)鳥越さんより説明され、7月—12月末の経常会計報告は、収入(前期繰越含め)1,521,040円。支出271,311円。残高1,249,729円でした。

続けて、あずさ部恒例のグループ別ディスカッション。まず、会員増強事業主査の菰刈さんによる司会と基調提案がありました。「会員数の現状と増強を」の発表をグラフで見ながら話を聞き、今のワイズの会員数下降現象の現実を知りました。この現象をこのままにしておく30年後のワイズメンはお消滅だそうです。現在の東日本区は884人、その内、あずさ部は176人。特記すべきは、甲府21クラブが年度目標を2名としていたのを7月からの前期で2名入会者を増やしたことでした。

あずさ部の評議会は分科会という名で、グループで討論をしますが、このスタイルが浸透してきております。甲府21クラブはメネットさんの参加も多くて、華やかな雰囲気でした。八王子からの出席者は、久保田、長谷川、茂木、並木、小口の5名でした。

高雄ポートクラブとのIBC交流

久保田貞視

今年は、IBCの高雄ポートクラブとIBCを締結して9年になります。

2009年2月25日に当クラブからは有海会長、小口ワイズ、長谷川ワイズ、山本ワイズ、吉原ワイズ及び久保田ワイズ・メネットの7名、高雄ポートクラブからは張弘(トム・チャン)氏を含め全員が出席し、高雄市のパレスクラブで盛大なIBC締結式が開催されました。高雄市の副市長、日本交流協会高雄事務所副所長、高雄YMCA総主事もご出席され、ご挨拶として両クラブ友好促進についての激励の言葉もいただきました。

その後、当クラブの15周年記念例会、20周年記念例会には高雄ポートクラブからは毎回数人がご出席され、高雄ポートクラブの10周年記念には当時の吉原会長(故人)が出席しました。また、当クラブの20周年記念事業として、いちようホール及び八王子台湾友好交流協会黒須理事長のご支援で、2015年2月に高雄市ユースオーケストラ一行を八王子に招待して、いちようホールで八王子市内5中学校のブラスバンドとの合同演奏会を盛大に開演、並びに八王子エルシィで歓迎会を催すことが出来ました。

そのほかにもメールその他で活動状況を相互に交換し合い、ワイズの国際大会・アジア大会でも参加者の間でIBC交流を続けています。

この4月には中央大学ひつじくもの須郷利貴君がSTEPで高雄ポートクラブにお世話になることになっています。来年度はIBC締結10周年で高雄ポートクラブの20周年、当クラブの25周年となります。高雄ポートクラブの20周年には当クラブ

より出来るだけ多くのメンバーの出席を望まれます。

今回の第20回チャリティコンサートのために、張弘(トム・チャン)元台湾区理事よりお祝のメールが入っております。

“Congratulations to your Charity Concert. It is very meaningful and continue CS for your Club.”

東京八王子・大阪セントラルクラブ DBC 例会

昭和の残照を訪ねて

吉田茂 邸とエリザベス・サンダースホーム 澤田美喜記念館

DBC担当 福田勝江、茂木 稔

今回の5月19・20日合同DBC例会は、倉敷市のアイビスクエアでの締結式以来20回目を数えるまでになりました。しかし、この度大阪セントラルクラブが解散する事になり、その前に行われる最後の合同例会となることが判明しました。大変残念なことですが、この間お互いに隔年で大阪と八王子の主催で旅行地を決めて、ご当地に詳しい方々が案内するという内容で、お互いに大変楽しい旅行地を巡る旅を楽しんできました。今年はこの最後の旅行を八王子が担当することになり皆で頭を絞った目的地を考えました。

それは昭和の時代を思い出させる各地を訪ねることにしました。昭和を代表する歴史の中では太平洋戦争です。その戦中戦後の変り行く時代を我々は経験しました。

その戦後最初の首相、吉田茂が過ごした大磯の吉田茂邸を訪ね、その足跡を見て来ようと思います。また、戦後の社会の中で活躍した、エリザベス・サンダースホームの澤田美喜氏の記念館も立ち寄ります。葉山の海浜の宿に泊まり、翌日は横須賀の港で明治時代に活躍した軍艦「三笠」を見て、横浜に出て新横浜で大阪の皆さんとお別れします。

澤田美喜記念館



澤田美喜氏

三菱財閥を創業した岩崎弥太郎の孫・澤田美喜(1901～1980)は、児童養護施設「エリザベス・サンダース・ホーム」を創設するという大きな業績を残しました。しかしそれ以前に、もう一つの隠れた業績として、「隠れキリシタン遺物コレクション」があることは世間あまり知られていません。

戦前の昭和11年、美喜は西洋キリスト教史上の殉教者たちのそれにもまして美しい殉教者が日本にもあったことを知りました。以来、彼女は九州の島々を自ら巡り歩いて、殉教者の子孫から隠れキリシタン遺物を集め、その遺物の数は1000点以上にのぼったといえます。(現在は872点確認)

「高尾わくわくたより」3月号

古市 健

朝晩の寒さもだいぶ緩み、施設内の梅の花も綻んできました。例年よりも厳しく、長い冬がようやく終わりを迎えてきたなと感じる日々が増えつつあります。

しかしながら今年もインフルエンザが猛威を振るっております。当館のスタッフとご家族にも罹患した方が少なくありませんでした。発症率が下火になったとはいえ、気を緩めずに手洗い・うがいを励行したいものです。

当館にとって2月は閑散期の終わりの月であり、まだ比較のお客様も少ない月であります。しかしながら今年は前年度よりも多くの、2,038名のお客様にご宿泊をいただくことができました。

1月は大雪に悩まされ、2月も初頭に再び大雪となり、今年は雪の当たり年かと警戒をしましたが、その後は気温が低ながらも降雪は無く、幸いにもお客様に大きな影響が及ぶようなことは多くありませんでした。

例年通り、今月は小中高の学生さんの姿はほぼ無く、大学生のサークル、部活、ゼミ、研究室、などのご利用が多くありました。いずれも、館内で仲間と和気あいあいと過ごす様子が見受けられ、少し遠くなった自分の学生時代を思い出し、微笑ましい気持ちになりました。

いよいよ今年度も最後の月を迎えます。今年は例年通り多くのご予約をいただきながら、利用の間近に、特に大口団体で、お客様の止むを得ない理由でキャンセルとなり宿泊者が減ってしまうケースが少なくありませんでした。

実は先日も3月にご宿泊いただく予定だった150名規模で3泊のスポーツ合宿が、他の大会と日程がバッティングしてしまったためにキャンセルとなってしまいました。

年間を通せばお迎えしたお客様の人数は昨年度よりも少ない数になってしまうのですが、それでもご来館いただいたお客様には、ご満足いただいたのではないかと思います。

今年度も残り少なくなりましたが、引き続き胸を張って、笑顔でお客様をお迎えして参る所存です。

西東京センター便り

館長 中里 敦

年度末を迎え、春キャンプの準備、そして新年度の準備など慌ただしい時期です。その中でも YMCA の働きを担ってくれるスタッフ、リーダーに感謝を憶えます。元気に新年度を迎えられるよう祈ります。さて、残り一ヶ月は大学等を卒業するリーダーにとっても学生として過ごせる最後の月です。いつも社会に出ていくリーダーを思うとき、YMCA で過ごした時間はもう一度あったのか、そして YMCA での経験が社会で役立ってほしいと願います。ボランティアリーダーは、子どもたち、障がいのある人たちと向き合い、悩み考えながら大人として成長していきます。人のためにすることの素晴らしさを体感し、一人ひとりの命を大切にできる大人へと成長していきます。この成長こそが、自分のすべき道を歩む主体的に生きることになると信じています。このリーダーの成長意外にも、もうひとつ大切に思うことがあります。それは、共に過ごしてきた仲間です。YMCA はただ一緒にいるだけの集団ではありません。時にはぶつかり合いながらも子どもたち、障がいのある人たちのために何ができるのかと仲間と共に手を取り、前に向かって歩む集まりです。その中でお互いを、理解し認め合い高めていきます。その仲間は、社会に出てからも助けとなる存在です。社会で自分がすべきことをする時、正しいのか悩むことがあったり、自信を失うこともあります。そんな時、傍にいなくても自分の価値を認めてくれる、正しいと声援をおくってくれる仲間とつながっていることが、大変な社会でも主体的にそして自立して生きることができると思います。YMCA での経験と仲間が財産となって社会で活躍できるよう祈ります。

今年も東日本大震災復興支援募金を 3 月第二水曜日の 3 月 14 日(水)西東京センターでも行います。地震を知らない世代が増えて来たり、記憶が薄れていきます。風化させないためにできることは少ないかもしれませんが、募金を呼びかけることで震災を覚え、支援していきたいと思えます。ご協力お願いいたします。

中大ひつじくも便り

中大1年 原部 佑基

例会でも紹介頂いたとおり、2 月中自分はモスクワに滞在していた。もちろん観光もしたのだが、ガイドブックに載っていないような施設や博物館、教会にも足を運んだり、現地の大学で日本語の勉強をしているロシア人の友人を訪ねたりしたので一般的な旅行とはちょっと違うかもしれない。多分、生活していたという表現の方が正しいのかもしれない。自分自身ロシア語は殆ど話せないのだが、幸いにもそれでもなんとかあった。

今のロシア社会を語る上で欠かせない要素が二つある。『ソ連時代』と『ロシア正教』の二つだ。モスクワにはソ連時代の物が非常に多く残っている。官公庁の建物や、街角の壁の落書き、公園や大通り駅などの地名、本当に様々だ。小学校で歌われている童謡の歌も、ソ連時代の歌が圧倒的に多く、今のロシアの国歌はスターリン時代の国歌と同じメロディーを使っている。さらに、2016 年のロシア内務省による調査によると、全ロシア国民の 47% がソ連時代を好評価しているらしい。ソ連時代を経験していない若者の多くも、現状の経済格差を憂いでソ連時代を賛美しているという話もある。

もう一つの要素がロシア正教だが、こちらは今のロシアでは殆ど国教となっている。全国民の 7 割強がロシア正教の教徒を自称しているという調査もあるらしい。モスクワの市内にはいたるところに教会があり、中には帝政時代から存在する教会もある(ソ連時代に一部の教会は破壊されたが、多くの教会は博物館や公共施設として使われ続けた)。破壊された教会の復興には国費が宛がわれて、政治家と高級聖職者との結びつきも強い。2 月中のモスクワはマースレニツァというロシア正教の祭りで盛り上がっていて、どこの教会も人で一杯だった。

『ソ連時代』と『ロシア正教』、ともに『平等』という観点に重きを置いている。片や国家の元、片や教会の元、それぞれ平等性を強く主張し助け合いや奉仕を推奨している。冬の厳しさが強力なロシアならではの要素と感ずることが出来た。

お話

YMCA の手帳には 2 月 14 日に「レント (~3/31)」、そして 4 月 1 日に「イースター」と書かれています。教会では春分後の最初の満月の後に来る第一日曜日を復活日とし、その日までの 40 日間はレントとされています。復活祭に因んだ諸行事は古い伝統に基づくものですが、理屈はともかく主の導きとイエスの教えに深く思いを致す貴重な機会とすべきでしょう。

イエスの復活を毎年祝う習慣は使徒時代の初期から行われていたようで、聖句はその様子を伝えているものだとの説があるので取り上げました。

仲田達男

報 告

2月24日(土) メネット例会 (TOF例会)

会長挨拶 ゲスト紹介

東日本区メネット委員長 大村知子さん (三島クラブ) 挨拶
連絡・報告

小口会長: 2月10日(土) 第2回あずさ部評議会

甲府市山梨県立図書館実施 報告

並木メン 街頭募金予定説明

久保田メン チャリティーコンサート予定

卓話「音楽療法を楽しく」お話: 能村昭子氏、楽器と解説: 森脇美佐氏、歌: 前山博子氏
音楽の持つ影響力で体を同時に動かすことに依り最大限に発揮できる音楽療法について。

会場の全員が参加して体感した。素晴らしい内容のある指導であった。

スマイル: 8,960円

参加者: ビジター 大村知子 (東日本区メネット委員長・三島クラブ)、松本倫子 (元メネット委員長・東京クラブ)、細川俊枝 (東京クラブ)、服部節子 (東京たんぽぽクラブ) 渡辺大輔 (あずさ部ユース事業主査・東京多摩武蔵野クラブ)

中大ひつじぐも 須郷利貴、原部佑基

八王子クラブ: 並木信一、中里 敦、長谷川あや子、久保田貞視、茂木 稔、望月隆珉、福田勝江、多河敏子、辻 直治、山本英次、小口多津子

メネット: 仲田節子、並木雍子、久保田佐和子、辻 久子 (出席者27名)

◇ 3月3日(土) 八王子駅街頭募金報告

募金総額 24,450円

参加者: 並木、福田、中塚、多河、中里、茂木
中大学Y: 原部、渡辺、宮内、恩田、岡村

絹の道デイサービスセンター ボランティア活動

【報告】2月23日(金) ペーパーフラワー 14:00~15:00

参加者: 石井、下重、多河、山中、茂木

【予定】3月16日(金) ペーパーフラワー14:00~15:00

*BF2018年2月報告

切手: 国内 5003g

海外 199g 累計 6002gを

今年度分として東日本区事務所へ送付しました。

プルタブ 0g 累計 9.24kg

〈西東京センター 主な行事予定〉

【3月】

13日(木) 14:00~15:00「ボイストレーニング」@西東京コミュニティーセンター
参加費: 700円

講師の玉澤先生のTV出演から参加者が増えています。声を出すことは、健康維持に様々役立ちます。ぜひご参加ください。

14日(水) 東日本大震災復興支援街頭募金
15:45~18:30

(募金時間は16:00~18:00)

@西東京コミュニティーセンター

ご協力よろしくお願ひいたします。

3月の誕生日の皆さん

古市 健さん 3月10日

茂木 稔さん 3月11日

酢屋 園枝さん 3月13日

眞野 範一さん 3月13日

並木 雍子さん 3月19日

長谷川あや子さん 3月19日

茂木 洋子さん 3月23日

ブリテン委員会

山本英次、茂木稔、大久保清

<http://ys-east.jimdo.com/bulletin/tokyo-hachioji/>